

宮城いきいき便り

新たな仲間との出会い

宮城いきいき学園入学式

「宮城いきいき学園」市青葉区の宮城県庁講堂で行われた。本年度の入学式が4月、仙台



「宮城いきいき学園の歌」を斉唱する入学生

の入学生は仙南、大崎、石巻、気仙沼・本吉、登米・栗原の各校合わせて145人。入学式には在校生も含め、約310人が出席した。

学園はシニアの学びの場として、生きがいと健康づくりを支援し、地域の担い手を育成することを目的に宮城県社会福祉協議会が運営。県内在住のおおむね60歳以上であれば入学できる。

入学式では、学園長で県社協の鈴木隆一会長が「これまで、それぞれ別々の舞台でご活躍



入学生を代表し、決意を述べる秋葉さん

されて来られた皆さんは、宮城いきいき学園という新たな場で、学習や行事を通して、新しく出会った仲間との絆を強めていただきました」と式辞を述べた。入学生代表で、仙南校の秋葉謙一さん(64)と述べた。

本年度の入学生の平均年齢は67・0歳、最高齢は仙南校の大久保さちるさん(80)。夫婦そろっての入学も2組あった。
入学式の後、元大郷町教委教育長で東松島市矢本東小スクールサポーターの鎌田光彦さんが「消しゴムで消えない我(わ)がたどろし道ーキラキラ輝く地域活動をめざして」と題して記念講演した。
鎌田さんは長年の教育現場の勤務から得た経験を話し、随所に流行語を取り入れるなど興味を引き付けながらの話は大好評だった。
入学式を皮切りに、各校では本年度の学園生活がスタートした。

元気にミニボランティア

宮城いきいき学園石巻校今年3月卒業 上石裕さん(71)

宮城いきいき学園石巻校の第22期生として今年3月に卒業。これから地域のために、どのような貢献活動ができるか思索している。

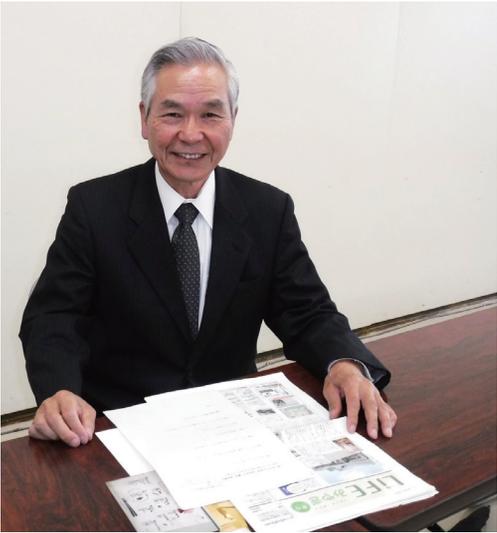
宮城いきいき学園石巻校の第22期生として今年3月に卒業。これから地域のために、どのような貢献活動ができるか思索している。

学園に入学した。1学年では60〜80歳と年齢幅があるが、お互いに学歴や職歴に触れることもなく、久しぶりの学生気分が新鮮で楽しく学習できた」と振り返る。

1年生の修学旅行ではじっくりと話せて、クラスメイトへの親しみが一気に増し、あらためて楽しい学園生活を実感した。

「委員会活動は2年間、文化祭実行委員として同期6人の委員が一丸となり、学園生の協力の下で文化祭を成功させた。クラブ活動

笑顔が印象的な上石さん



では、1年生の時は太極拳クラブで体力づくりを目指し、その成果を文化祭で舞台発表、2年生はパソコンクラブで基礎から学ぶなど充実した学園生活だった」と目を細める。



女性メンバーが手作りした料理をおいしく味わう

学園で学ぶ豊富な教養科目や体験・自主活動などを通してボランティア活動に目覚め、「自分のできることで社会に恩返ししたい」と日々考えていた。

同期女子会「お茶っこ会」に男性が加わり、2年生の時に22期であることから名称を「ニコニコ会」と決め、メンバーの親睦を深めた。

「会員は27人。男性は10人で活動の中心は女性ですよ」と笑う。

卒業後、ニコニコ会の会長として初めての4月の集まりでは、男性はパークゴルフを存分に楽しみ、女性は各自が得意とする料理の材料を自ら調達して調理に奮闘。豪華な料理で大いに盛り上がった。ニコニコ会の活動は

「元気で、健康であることが肝心。役に立てることができれば手伝い、皆のためになることを長く続けていきたい」と語るのが印象に残った。

各委員会が当番制で企画立案。月2回のパークゴルフを中心に名勝探訪、小旅行などを隔月で開いている。「卒業後も楽しい生活ができることも小さなボランティア活動」と力強く語る。

ヨガやウォーキングで体を鍛えることにも余念がない。仕事で培った技術を生かし、ちょっとした家財の修理など「チヨイボラ」(小さなボランティア活動)も行っている。